

読賣新聞

2014年(平成26年)

10月17日 金曜日

乳がん撲滅 ピンクの光 あす慈尊院



試験点灯でピンク色に染まった慈尊院の多宝塔（九度山町で）

女性のがんについて考える市民公開講座「女性特有のがん（乳がん・子宮頸がん）検診率向上をめざして」が18日午後2時半から橋本市高野口町の市産業文化会館で開かれる。乳がん患者らのお参りが多いことで知られる世界遺産・慈尊院（九度山町）ではこの日夜、多宝

塔を、乳がん撲滅のシンボルカラーのピンク色に染めるイベントが行われる。

公開講座は、紀和病院（橋本市）内にある「紀和ブレスト（乳腺）センター」などでつくる実行委員会が主催する。

慈尊院は弘法大師・空海の母が住んだとされ、「女

人高野」とも呼ばれる。古くから女性が妊娠や安産を祈って乳房形の絵馬を奉納し、近年は乳がん患者の参拝も増えている。

18日のライトアップ本番に先立ち、今月上旬に3基のライトで屋根上の九輪を含め高さ約16メートルの多宝塔を照らす試験点灯が行われた。18日の点灯は午後5時半～同8時半。公開講座は入場無料で、事前申し込みも必要ない。問い合わせは実行委事務局がおかれている紀和病院（0736・34・1317）へ。